

令和6年度 益子特別支援学校 学校評価シート

今年度の
努力点

1. 自立と社会参加に向けた自ら考えて行動する力の育成
2. 安心安全に学べる学校環境づくりと、実践的な安全教育の強化
3. 保護者や地域との連携・協働による信頼される学校づくりの推進

評価基準: A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できていない D:達成できていない

学部・分掌部	評価項目(具体的な取組目標)	努力点項目	評価の観点	関係する保護者アンケートの結果(A+B)	自己評価	分析・考察	今後の改善策等
小学部	将来の社会生活を見据えて、互いに関わり合う力を身に付けるための指導・支援の工夫を行う。	1	・児童が自分なりの方法で、自ら返事や挨拶をすることができたか。 ・児童が自分の気持ちを表現したり、周囲の状況や相手の意見を受け入れたりして過ごすことができたか。	97.6	B	・教師から目を合わせる、最初の音を言うなど意識して関わることで、自分から挨拶しよう、返そうという児童が増えた。 ・授業の振り返りの場面で気持ちを表出する場面を設けた。	・中学部、高等部を見据え、指導の系統性について共通理解を図っていく。 ・相手の意見を聞き入れたり受け入れたりすることは難しい児童も多いが、思いを代弁するなど丁寧な関わりを今後も継続していく。
中学部	社会生活に必要な基本的なマナーを身に付けるための指導・支援の工夫に努める。	1	・重視するマナーを具体的に学校目標や個人目標と関連付けて示して支援することができたか。 ・学年間や作業班内で共通理解を図りながら継続した支援ができたか。	97.6	B	・挨拶や返事など基本的なマナーについては、実態に応じて個人目標に掲げ、特に作業学習の場面で重点的に指導することができた。 ・適切な声の大きさを意識したり、立ち止まって挨拶ができたりする生徒が増えた。	・作業班の教員全体で生徒の個人目標について検討し、共通理解を図る取り組みは効果的であった。今後も継続していく。 ・小学部で学んだことを中学部でさらに伸ばしていくための指導を工夫し、共通理解を図りながら今後も継続して取り組んでいく。
高等部	社会生活を想定した実践的なマナーを身に付ける指導・支援を行う。	1	・各学年等で重視するマナーについて教員間で共通理解を図り、指導・支援を行うことができたか。 ・授業等で、生徒が自発的に行動できるような場面設定ができたか。	97.6	A	・教員間で共通理解を図った上で、生徒が考える場面を設定し、自発的に行動できるよう促しながら、指導・支援を行うことができた。 ・自信につなげていく言葉掛けや場面設定を行い、自己肯定感を高められるような指導支援を行うことができた。	・今後も継続して生徒の実態に応じた挨拶・返事・報告の仕方をより具体的に繰り返し指導していく。 ・各学年で重視するマナーについて職員全体で共有し、指導の効果を高める。 1年…5分前行動 2年…丁寧な言葉遣い 3年…人と接するときの態度
教務部	保護者や地域との連携・協働の促進を図るため、学校ホームページ等を活用した積極的な情報発信の工夫に努める。	3	・学校行事や儀式、各学部の取り組みなどをホームページや通知等で適切に発信することができたか。 ・情報発信の仕方や内容、頻度などを工夫し、保護者や地域の方に分かりやすく、効果的な情報発信を行うことができたか。	97.1	B	・児童生徒の活動の様子を、ホームページで随時発信することができた。写真を多めに、文章は簡潔にすることで、分かりやすい記事を工夫することができた。 ・ほけん日より給食の献立などもアップし、地域や一般の方にも学校の様子を分かりやすく発信することができた。	・バナーやカテゴリ分けなどを工夫することで、さらに見やすいホームページにしていけるとよい。 ・一部の教員に偏ることなく、できるだけ多くの教員が記事の作成や更新に積極的に取り組んでいけるよう、マニュアルの工夫や校内研修の実施など充実させていけるとよい。
学習指導部	自立と社会参加に向けた自ら考えて行動する力の育成のために、基本的な生活習慣を身に付ける指導内容の充実及び指導方法の工夫に努める。	1	・基本的な生活習慣を身に付けるための指導方法について、学部内の教員間で共通理解をもって指導を実践することができたか。 ・日常生活の指導の年間指導計画について、系統性・一貫性のある計画となっているか、実践を通して検証を行うことができたか。	97.6	B	・それぞれの学部や学年・学習グループ等で共通理解のもと指導を行うことができた。視覚支援教材やハンドサインの資料も共有され、指導の手立てを確認することができた。 ・教科等係会を通して学部間でも情報交換を行ったり、年計の確認等を行ったりすることができた。	・新年度に向けての引継ぎをしっかりと行い、継続して指導の向上・統一を図っていけるようにする。 ・年計の検証については今後も引き続き行う。教科等係会での話し合いの結果も適宜学部へ伝達し、情報を共有できるようにする。
児童生徒指導部	児童生徒が自ら考えて安全に行動する力と他者を思いやる心を育む生徒指導の充実に取り組む。	2	・児童生徒心得の励行に努めると共に、一人一人の障害の特性等に応じた安全教育、生活指導を行うことができたか。	98.5 97.6	A	・児童生徒の実態に応じた交通安全教室や防犯教室等を実施し、安全に行動する力を育むことができた。 ・生活指導については、終業式毎に長期休業の過ごし方として規則正しい生活、健康、安全等について指導を行った。また、生活年齢に応じたパワーポイント資料を作成し、各学部にて授業内で指導を行うことができた。	・今後も社会的な問題に対応した安全教育の充実を図り、実施していく。 ・年度初めの職員会議等において、児童生徒心得の周知を徹底し、より系統的な指導が実施できるようにする。また、他者を思いやる心を育むための児童生徒指導の充実に向けて、人権教育と連携していけるようにする。
進路指導部	児童生徒や保護者等の主体的な進路決定を支援するために、関係機関の協力を仰ぎながら情報提供や進路相談機能を充実させる。	3	・進路関係行事の内容や、ホームページ等での情報提供を充実させることができたか。 ・保護者、生徒、教員からの相談に十分な対応ができたか。	95.1	A	・保護者向けには施設説明会、企業見学、保護者講話、ガイドブック発行、HP更新等で情報提供を行ったが、行事が平日で参加できないという声があった。教員向けには、事業所体験研修や進路指導基礎研修等で知見の向上を図った。 ・12月末日時点で16件の保護者進路相談を行い、生徒とも適宜個別相談を行った。教員からの様々な相談に対しても、おおむね適切な回答を行うことができた。	・これまで通り、行事の1か月前までに早めに通知する。また参加できない保護者のためにガイドブックやホームページ等での情報提供を引き続き充実させていく。 ・引き続き各担任を窓口保護者二一卒の把握に努めると共に、個別進路相談の実施について保護者への周知を図る。

健康指導部	児童生徒が安心して学べる環境を整え、健康への理解と実践的な安全教育の充実を図る。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における安全管理の徹底、及び保健指導等における共通理解と連携を図り、課題の改善に努めることができたか。 ・自ら考えて行動できる防災安全教育の実践を行うことができたか。 	98.0 98.5	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内環境整備やプール管理は、修繕が必要な箇所を明確にし、事務部と連携を図りながら安全管理・改善に努め、安全・安心に学べる環境づくりができた。各検診結果や心身の課題に対する医療関係者等の助言を受け、解決への手だてを担任・保護者へ提示することができた。 ・各学級にだんごむしのポーズ・シェイクアウト訓練の視覚支援教材を配布し活用したことで、避難訓練では自ら考えて行動できる児童生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検簿や、産業医による校内巡視から上がってくる改善箇所は、事務部と連携を図りながら修繕を進め、職員全体へ周知していく。自分のからだや健康に興味関心が持てるよう、かかりやすい病気の予防方法や、感染状況の提示を工夫する。 ・避難訓練や日々の授業において自分の命は自分で守るように自ら考えて行動する指導を行ったり、配慮が必要な場合は教員間で共通理解を持って対応したりすることを通して、安全に落ち着いて行動できる力の定着を図りたい。
相談支援部	早期教育相談担当者間で共通理解を図り、幼児が自発的に取り組めるような活動や関わりの工夫に努める。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の意思、行動の意味を丁寧に読みとり、やりとりすることができたか。 ・教材の使い方について担当者同士で意見交換し、相談に活かすことができたか。 	—	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の実態に応じて、意思をくみとったり、行動を観察しながら関わることができた。 ・係内で手作り教材の紹介等を行う機会があり、担当者同士の学びとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初回相談を2名で担当することを継続し、早期教育相談担当者の資質向上につなげる。 ・担当者間での意見交換の場を計画的に実施できるように年度当初に計画する。
渉外部	保護者と協力して保護者同士・地域とのつながりを大切に活動の推進や情報発信に努める。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会・理事会・専門委員会・地区活動を通して、つながりを大切に活動の推進に努めることができたか。 ・保護者に研修等の案内やPTA活動に関することなど、積極的な情報発信に努めることができたか。 	96.6	B	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会等を中心に情報交換の時間を設け、出席者同士で、主に活動内容に関する意見や情報の交換ができた。また地区活動では保護者が主体となり地域の施設等を活用した活動が実施できた。 ・各種団体からの研修会等の案内を発信した。回答が必要なものはメールでの案内・集計を行い、効果的だった。専門委員会の活動の様子をホームページに掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方が活動に参加できるような工夫の検討に努め、つながりを広げる機会になるとよい。 ・継続してメールやホームページ等を活用した情報の発信に努める。また案内した研修日等が重ならないよう部内で情報の共有・確認に努めていく。
特別活動部	地域や異学年など様々な人との関わりの中で、児童生徒の自尊感情や自己有用感を高められるような活動の充実を努める。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・集会やMYタイムなどで異学年交流を工夫して実施することができたか。 ・交流学习やボランティア受け入れなど、地域の方々と関わる場面を設定した行事を計画、実施することができたか。 	97.6 96.6	A	<ul style="list-style-type: none"> ・集会の縦割り班活動で高等部生がリーダーとなる場面を設定したり、MYタイムで上級生が下学年をリードする場面を設けたりした。 ・近隣の児童生徒と交流する学習を実施した。授業や行事等でボランティアを受け入れ、地域の方々と関わる場面を設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、異学年交流や地域の学校との交流などで関わる場面を設定する。リーダーや役員をはじめとする児童生徒に対する指導の手立てを職員間で共有し、指導の工夫をしながら取り組む。 ・ボランティアと教師が互いの考えを話し合う時間を設け、共通理解をもって支援できるようにしていく。

学校関係者評価（学校評議員からの意見、要望、評価等）

1. 自立と社会参加に向けた自ら考えて行動する力の育成	<p>○将来の社会生活を見据え、挨拶などマナーの指導は大切。自分から挨拶できる子どもは周りから愛される。挨拶の手段は首声言語だけではない。強要するのではなく、その子なりの方法で挨拶できる、周囲からの働きかけに応えられる、ということを大切に指導して欲しい。</p> <p>○教科学習などは実態別のグループ分けなど個に応じた指導を充実させていくことも必要だが、一方で様々な実態の児童生徒がひとつの集団で共に活動することで得られる経験の良さもある。学習活動に合わせた指導の工夫が大切。</p>
2. 安心安全に学べる学校環境づくりと、実践的な安全教養の強化	<p>○災害時に自分の身を自分で守れる力を養うことは大切である。小学部段階から避難訓練の経験を積み重ねることで着実にそのような力が身に付いていると感じた。</p> <p>○学校での感染症の状況を知りたいという保護者からの要望にどう応えるか。 →問い合わせがあった場合にすぐに担任が回答できるよう、校内における感染症の流行状況を職員室と保健室前の廊下に掲示している。</p>
3. 保護者や地域との連携・協働による信頼される学校づくりの推進	<p>○情報発信について。保護者は日常の学習の様子などを知りたいと思う。個人情報との兼ね合いもあり、写真などの情報をどの程度、どのように発信できるか。難しい面もあるが、発信の仕方を工夫し、充実させてほしい。</p> <p>○ホームページへの写真の掲載について。保護者への確認はもちろん、高等部生などは、本人に確認を取ること情報モラル教育の一環としてあってもよいのではないかと。また、自分たちでホームページに掲載する記事を作成することも考えられる。</p> <p>○地域の様々な人との交流活動は子どもたちにとって非常によい経験になる。コロナ禍で途切れていた学校間交流や地域との交流を再開できたのはよかった。学校支援ボランティアもさらに充実させていけるとよい。</p>